

総合計画策定に向けた高校生とのタウンミーティング特別版（要約）

テーマ：未来の理想的な松山

令和5年10月1日（日）

【市長】 皆さんこんにちは。学生の皆さんも忙しいですね。自分のことを振り返ると結構忙しかった思い出があります。日曜日ですが、忙しい中松山市役所までお越しいただき、ありがとうございます。松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任させていただいた当初から行っています。松山市は旧松山市、旧北条市、旧中島町が合併して今の松山市になっており、全部で41地区に分かれます。1期目ではその41地区を二巡りさせていただきました。2期目に入ってから地域別のタウンミーティングを継続して実施しているほか、農業をやっている方や商店街の方に集まっていただき、職業別のタウンミーティングを実施しています。また、高校生や大学生、専門学校生、子育て世代、働き盛りの方、シルバー世代の皆さんと世代別のタウンミーティングもしています。現在4期目も継続中で、今回のタウンミーティングで132回目です。松山市には環境分野や交通分野などいろいろな計画がありますが、最上位に総合計画があります。10年に1度の計画を作り変える作業で、多くの市民の皆さんの声を伺いながら、松山が目指す未来の姿を描こうとしています。特に大切にしたいのが、将来のまちづくりの主役となる、皆さんのような若い世代の声です。小学生や中学生、高校生、大学生などの約3万人を対象にアンケート調査を実施しているほか、今日のように松山の未来を語り合うタウンミーティング特別版を実施しています。未来の話なので正解はありません。若者らしい自由な発想やアイデアについて意見交換をさせていただき、できる限り計画に活かしていきたいと思えます。

1班：理想的な「観光・文化・スポーツ」の未来の姿

【女性】 私たちは松山市の未来の観光・文化・スポーツ分野について説明をさせていただきます。理想の未来像は「来て、見て、体感する 人であふれるまち 松山」です。具体的な内容の1つ目は「若者が手軽に来られる、楽しくまわれる、スムーズにまわれる」ことです。若者だけではなく、外国人観光客の方や県外から来られる方にとっても、市外からの交通の利便性や市内の回遊性が高まってほしいと思えます。私が通う学校はロープウェー街の真ん中にあるのですが、観光客によく話しかけられます。「道後温泉はどうやって行ったら良いんですか」や「どう行ったら松山城に行けますか」とよく聞かれて、市内電車の路線図を見てもどう行けば良いのか分からない人が結構多いようなので、県内の人、県外の人、外国人の方もスムーズに回れるようになってほしいと思えます。そのために、例えば今話題のAIを使った観光マップがあれば周りやすくなると思えました。

【男性】 2つ目が「野球文化を中心にいろいろなスポーツが楽しめる」です。昨年は地方球場初の3度目のプロ野球オールスターゲームがありました。オールスターゲームを開催するにあたって、坊っちゃんスタジアムの電光掲示板のビジョンや客席などをリニューアルして綺麗になりました。そして野球以外にも、サッカーJ3の愛媛FC、バスケの愛媛オレンジバイキングス、野球の愛媛マンダリンパイレーツがあり、ニンジニアスタジアム、松山コミュニティセンター、坊っちゃんスタジアムなどの試合会場が松山市内にあります。愛媛FCは先週まで14戦負けなしの1位で、今日の試合もアウェーの富山ですが、途中経過では2対1で勝っていてJ2復帰に向けて頑張っています。愛媛オレンジバイキングスもこれから開幕を迎えて勝利を重ねてほしいと思います。せっかく松山市に会場があるので、もっと学生や一般の人に試合を見に行ってもらいたいと思います。

【女性】 3つ目に「アニメ・ゲームの聖地にする」ことが挙げられます。道後温泉が手塚治虫さんの火の鳥とコラボレーションして人が集まるきっかけになっていたと思いますが、アニメ・ゲームのイベントや展示をすれば、特に若者は集まりやすくなると思います。SNSを見ていると、アニメやゲームに関するイベントは人が集まっていて、人が集まらないイベントは見たことがないです。松山市内で人を集めたい場所にイベントができる会場を作れば良いと思います。聖地は人が集まるポイントとなるため、聖地を作れば若者は集まると思います。

【男性】 自分たちにできることとしては、自分たちがチームのサポーターになることが考えられます。先ほども話に挙げたように、最近では愛媛FCや愛媛オレンジバイキングスなど多くのスポーツチームが盛り上がってきています。自分たちがサポーターとして応援することで、選手の試合へのモチベーションを高めることが大事だと思います。2つ目は、SNSなど気軽なものから発信することです。ティックトックやインスタグラム、ラインなどで一度有名になると多くの方に知ってもらうことができ、海外や他の県からも愛媛に来てくれると思います。気軽なことだから良いので身近な地元の特産物や伝統文化などについて自分たちが投稿することが大事だと思います。

【男性】 また、もっと市内に出かけることも重要だと思います。コロナ前と比べて銀天街も大街道も店の数が減って人があまり戻ってきていないという印象があります。自分たちがもっと市内に出かけて、企業の方に「この辺は若い人がたくさんいるから東京や大阪にしかない若者向けの店を出店しよう」と思ってもらえると、大街道や銀天街の人通りが増えて、ついでに三越や高島屋に行っても買い物しようという人も増えると思います。

【女性】 さらに、場所や機会を増やすことが挙げられます。私たちに今できることではないのですが、文化やスポーツに触れるにも、場所や機会がなければできないと思います。場所や機会が増えると観光や文化、スポーツ、伝統芸能、伝統工芸などさまざまな面での発展につながってくると思います。

【市長】 一生懸命に考えてくれたのがよく分かりました。ありがとうございます。松山には市内電車が走っていますが、全国でこのように路面電車が走っている都市は、18都市しかありません。全国に1,718の市町村がありますが、そのうち路面電車が走っているまちは18都市しかないんです。100分の1くらいで本当に少ないです。路面電車があれば免許を返納したとしても移動ができます。排気ガスを出さないから環境に配慮したまちづくりができますし、お年寄りや体の不自由な方も乗りやすい低床路面電車は現在22両あります。低床路面電車は愛媛県と松山市、国で連携して補助金を出して導入しており、郊外電車の枕木の整備や、駅のバリアフリー化の支援などもしています。公共交通は大事にしていきたいと思います。また、道後温泉の「火の鳥」のテント膜について、中には「漫画か」という批判の声もありました。しかし、漫画やアニメーションは日本の文化です。クールジャパンと言いますが、世界に誇れる文化です。そのように説明してテント膜の実現に結びました。誇りを持ちながら取り組んでいきたいと思えますし、アニメに関しては松山市で考えていることもあるので楽しみにしててください。また、市内での買い物について、三越と高島屋の間に商店街があります。コロナ禍前まで松山の中心市街地の空き店舗率は10%程度でした。10件に1件くらいが空き店舗で、全国的にも大健闘していましたが、コロナの影響を受けました。また、コロナ禍前に、松山三越が撤退するという話がありました。松山市よりも人口規模が大きい新潟市で、新潟三越が撤退しました。松山からも撤退されたら困るので、三越伊勢丹グループが東京にありますが、私や職員が何度も通って松山は観光やビジネスで伸びしろが大きいことを説明させていただき、残ってもらうことができました。コロナ禍前ですが、私が就任してからダイワロイネットホテル松山やカンデオホテルズ松山大街道、レフ松山市駅、コンフォートホテル松山などいくつもホテルが新しくできました。ホテル業界はマーケティングをしっかりとした上で進出されます。コロナの影響を受けましたが、これからは松山が賑わうまちづくりをしっかりと進めていきたいと思えます。

2班：理想的な「子育て・教育・福祉」の未来の姿

【男性】 私たちが子育て・教育・福祉分野で理想とする10年、20年後の松山の未来像は「AIと人が共存する松山」です。AIをさまざまな場面でもっと活用することで、私たちだけでなく、年配の方や未来の子どもたちなど世代に関わらずより良く幸せに過ごすことができたら良いと考えました。

【女性】 具体的な内容の1つ目は「お年寄りに優しい松山」です。私の祖父母は愛媛県内に住んでいて最近スマホを買ったのですが、電話しかできないので、先週祖父母の家に行ってラインの使い方を教えたのですが、まだ既読の付け方すらも分からない状態で、お年寄りにとってスマホは使いにくいものなのだと実感しました。日本では少子高齢化が進んでいて、松山でも全体の5割以上が高齢者の地域もあると最近知ったのです。

が、私たち若者の割合が少なくなる中でお年寄りに手を差し伸べることができないケースもあるかもしれません。また、近所に住むお年寄りの具合が突然悪くなって救急車を呼ぶ時にその地域に医療機関がなければ、助けるまでに時間がかかってしまうと思います。医療機関の数が限られているのは人が減っているからだと思いますが、人が減る分、若者やお年寄りの負担も大きくなると思います。その負担を減らすために、ロボットやAIを活用して補っていく必要があると思います。例えば、その日の体調や様子を記録して少しでも異変があれば近くの医療機関や家族に知らせてくれるAIロボットを高齢者の家に1台設置すると良いと思いました。また、祖父母のように使い方が分からないことがあると思うので、Z世代と呼ばれる情報や機械を使い慣れている、私たちの世代と高齢者が交流する場所を設けて、機械の使い方を教えられると良いと思いました。さらに、家で医師の診察を受けて処方された薬を、自宅までドローンが運んでくれるシステムが実現したら、お年寄り世代も楽に暮らしていけると思います。

【女性】 2つ目に、「AIを利用した教育」をもっと取り入れたら良いと思いました。共働きの世帯が増えている中、親が子どもと向き合う時間も減っていると思います。子どもの勉強の様子や課題の確認もどんどん難しくなっていくと思います。私は下に6人兄弟がいて、母親が全てを見るのはすごく難しいです。学校でタブレットが支給されていて、「これで少しは楽になる」「先生や親の負担も減る」と思ったら、実際そうではないんです。現状では紙の課題がまだあって、タブレットでの課題は本当に少数で、親が課題の確認をすることも多くある状態です。その負担を減らすためにも、私は学校の課題を全てデジタル化して、AIが丸つけをしたり、子どもの勉強の様子を記録するアプリや機械があれば便利だと思いました。子どもの勉強の様子を記録して可視化することで親も確認しやすくなると思いました。また、記録をもとに特性を分析して、その子に合う勉強量や勉強内容をAIが課題として出してくれたらとても便利になると思いました。この仕組みは子どもの今後の進路や職業を決める材料にもなると思います。また、バーチャル空間で通える学校についても意見が出ました。学校が遠くにあったり、近くにあっても山の上に住んでいて学校に通うまでの道のりが長い子どもたちが家でも授業が受けられるようになると思います。また、リモート授業と違ってバーチャル空間なので、理科の実験をしたり、校外学習に出かけたりすることもできると思います。ニュースで、子どもが使うには危ないから、アルコールランプを使っていない小学校が多いと聞きました。このように子どもには危ないこともバーチャル空間ならできると思いました。それによって子どものできることの幅がより広がると考えました。

【女性】 私たちにできることの1つ目は、意見の発信や提案です。選挙に参加したりこのような会に出席して自分の意見を提示することが大切だと考えました。あらゆる年代の方の意見があることで、より良い案が得られると思うので、積極的に意見を発表したいと思います。2つ目は課題の発見です。AIと共存する上で、AIの課題も発生する可能性があります。AIに慣れていない高齢者への対応が必要であったり、責任の所在

が不明確になる等の AI のデメリットもあります。課題を解決することはもちろんですが、課題に気付かず不満を持ったり、我慢しながら生活する方が出てくると思うので、さまざまな知識を持った私たちが課題を発見できたら良いと思いました。そのために松山市や地域のことを知り、現状を把握することが必要だと考えました。

【女性】 最後に私たちが身近でできることについてご説明します。1つ目は困っている人を助けることです。例えば道に迷っている人や助けを求めている人がいた時に自分から積極的に声をかけることが必要だと思います。そして、自分自身が AI に慣れておくことも必要だと思います。先ほどの意見にもありましたように、お年寄りの方はスマホなどの使い方がよく分からず、スマホを触る機会がない人が多いと思います。その人たちのためにも普段 AI を使う機会が多い学生や若者がお年寄りに分からないことを教えるサービスを提供することができれば良いと思います。

【市長】 おじいちゃん、おばあちゃん世代にはデジタルが苦手な方がいらっしゃいます。そういう時に是非、お孫さんが教えてあげてください。郵便局と連携して情報格差を無くすよう取り組んでいます。おじいちゃん、おばあちゃんは他人に教えてもらうことに緊張するんですね。家でお孫さんに教えてもらえたら時間の制約もあまりないし、おじいちゃん、おばあちゃんも嬉しいんですね。皆さんがお年寄り世代に教えることはとても有効だと思います。それと、皆さん高校生だから英語が喋れると思います。松山でも外国の方が増えてきましたが、外国の方は日本人から教えてもらうと喜んでくださると思います。ゆっくり聞いてくれます。難しい単語は使わなくて良いんです。この間市役所に愛媛オレンジバイキングスのチームの方々が来られて、フェルプスという外国人選手がいらっしゃったのですが、私が英語で話したのは「How many seasons have you been with this team?」です。全部分かりやすい単語です。「How many seasons」で大体伝わります。すると彼は「four」と言いました。4 シーズン目ということです。次に好きな食べ物について「What is your favorite food in Matsuyama?」と聞きました。きっと皆さんも同じように話せると思います。キョロキョロしている外国人の方を見つけたら「Can I help you?」と声をかけてみてください。また、教育に関しては、国がタブレット端末を活用した教育を進めてきました。令和3年2月に市立の小中学校でタブレット端末を1人1台ずつ整備して、習熟度に合わせた学習を行っているほか、不登校気味の児童や生徒への学習支援にも繋げています。また、全国で保育士不足なので、保育士の負担を軽減できるよう、保育所にタブレット端末を導入して出席簿や保育料の管理ができるようになり、2時間かかっていた仕事が30分でできるようになりました。デジタル技術を活用して、さまざまな面で快適に便利にしていきたいと思います。国が積極的に導入したタブレット端末も年数が経つと傷んで、徐々に故障する台数が増えてきました。「後は市や町でやってください」というような雰囲気になってきているので、国策で進めてきたんですから、ちゃんと面倒を見てくださいますよと全国市長会で国に要望しています。

3 班：理想的な「環境・交通」の未来の姿

【女性】 私たちが環境・交通分野で理想とする 10 年、20 年後の松山の未来像は、「みんなが過ごしやすく、移動しやすい松山」です。交通分野についてはバスなどの公共交通機関や自転車、環境分野については松山のごみ問題や森林などについて考えました。

【女性】 具体的な内容の 1 つ目は「自転車で走りやすいまち」です。私は花園町のアーケード通りを自転車で通ることがあるんですが、自転車専用道路はとても使いやすく、学校の前は歩道の中に自転車通行帯があってとても便利です。しかし、家の近くから学校に到着するまでのほとんどの道で、自転車が安全に通行できるスペースがあまりないです。学校の自転車指導では歩道を通らないように指導されますが、車道を通っていると、自転車の後ろにバスがついてきて、どうしたら良いか分からなくなることがよくあります。また、高校生が多い時間帯に高齢の方がゆっくり自転車を運転されていて危ないと思うことが多いので、中心部から少し離れた場所も自転車で走りやすくしてほしいです。さらに、学校では毎年自転車指導がありますが、高齢の方の運転がとても危ないと感じることがよくあるので、地域の方にも自転車指導をしていただけたら嬉しいです。ヘルメットを被っていない方が多く、自転車に乗った高校生に追い抜かれていて、お互いに危ない状況にあると思うので、全員が自転車を気持ちよく使えるようなまちになってほしいと思いました。

【男性】 次に「公共交通機関を使いやすく」することについて話させていただきます。今日、伊予鉄の電車やバスの運賃が値上がりしました。みんなが使いやすさについて、高齢者の方に焦点を当てて話したいと思います。松山市の公共交通機関といえば、私の中では伊予鉄が最初に出てくるんですが、伊予鉄のシルバー定期が 11,200 円です。お金のことで申し訳ないのですが、みんなが使いやすく、過ごしやすくなることを考えるとやはりお金も絡んでくると思います。シルバー定期が 11,200 円で、詳しくありませんが、国民年金の受給額は大体月 6 万円から 7 万円ぐらいだったと思います。その人たちにとって 1 万円はどれくらいの負担感か考えると少し高いと思いました。他県のシルバー定期などの取り組みを調べてみましたが、例えば札幌市では 1,000 円チャージしたら 1 万円分のチャージになる取り組みや、青森市では月 1,100 円で一定期間フリーパスが使える取り組みを行っていて、より多くの高齢者の方に公共交通を使ってもらうにはシルバー定期をもう少し安くした方が良くないかと思いました。なぜ高齢者の方に焦点を当てたのかというと、高齢の方が自転車や車を使うことに伴う危険があると考えたからです。もちろん車を使わなければならない事情もあると思いますが、できれば公共交通機関を使ったほうが良いと思います。ニュースでよく見る高齢者の方が起こしてしまう事故を減らせるとは思いますし、車を使うと排気ガスが出てしましますが、SDGs の観点からも電車などの公共交通機関を使うと良いと思いました。また、路面電車が低床でバリアフ

リーなデザインになっているという話を聞いて嬉しく思いました。最後に、アニメや漫画に関して話させていただきます。市内電車が「アオアシ」という漫画とコラボしていると思うんですが、そういった取り組みをもっと増やすと良いと思いました。市長も先ほどおっしゃっていたとおり、漫画やアニメはクールジャパン、日本の立派な文化なので、電車などの公共交通機関に使うことで、県外の方もそれを目当てに来ると思います。また、アニメや漫画が好きで外国から日本に来る方は多いと聞くので、松山市に来る外国の方を増やせると思いました。

【女性】 環境分野については「ごみゼロで自然に優しい」まちという意見が出ました。大街道や銀天街、道後の商店街を歩いているとたまに道端にポイ捨てされたごみを見かけることがあります。それを防ぐために、既に設置されている所もあるかもしれませんが、各所にごみ箱を設置すると良いと思えます。ごみ箱に入れるという1つの動作を促すことで、1つずつまちなかからごみが減っていくと思えます。また、小学校の図画工作などの授業でごみ箱を制作してまちなかに置く活動があると良いと思いました。

【男性】 「ごみゼロで自然に優しい」に関連して、ごみ拾いマッチングアプリについて私から説明させていただきます。ごみが落ちていたら拾うのは当たり前だと思うんですが、1人ではなかなかやろうと思わないので、みんなでボランティアをするきっかけになればと思い、ごみ拾いと掛け合わせたマッチングアプリを提案しました。少子高齢化が進んでいる中で出会いの場にもなると思えますし、「ごみ拾いマッチングアプリって何やねん」というツッコミからさまざまな人が興味を持って調べて、発展するのではないかと思います、ユーモアも含んでいます。

【女性】 どんな未来になったら良いかを考えた時に、私たちの班のなかでも、自転車や電車通学の人、足腰の悪い高齢の祖父母がいる人などさまざまな視点から意見が出ました。今回は高校生の若い目線から考えましたが、さまざまな立場の人の視点を取り入れて優しい松山になったら良いと思えます。

【市長】 ありがとうございます。まず駐輪について話したいと思えます。今までロープウェー街や大街道、銀天街、市駅前の違法駐輪を解消するべく動いてきたんですが、現在松山市駅前広場の再開発をしています。花園町通りの近くに松山市役所第4別館があるんですが、そこにある駐輪場の収容台数を広げる予定です。うちの子どもは2人いて、高校に自転車で通っていました。だから、皆さんの気持ちがよく分かります。おじいちゃん、おばあちゃんたちが自転車で走っている様子もよく分かります。シルバー定期の話が出ていましたが、公共交通機関には1年間で大きな額の支援金が入っているので、支援の用途の振替も考えないといけないと思いました。例えばシルバー定期が高額になっているのであれば、そちらに補助を振り替えてシルバー定期を安くして、自転車よりも公共交通を使っただけにようにすることもありうるのではないかと思います。松山市役所の仕事は多岐に渡ります。皆さんの税金で仕事をさせていただいているので、基本的に決まったお財布の中でやりくりしています。どこかにお金を出すとどこ

かを削らないといけないので、用途の振替も考えなければならぬと思いました。昭和50年頃に人口が増えてきたため、多くの公共施設が建てられました。松山の小学校は53校、中学校は29校あります。学校にはプールがありますが、人口減少で子どもの数が減っているので全部の小中学校でプール持つのが難しくなっていることが全国で問題になっています。そういう時代の中で、何かを作ってしまうと管理のお金が皆さんの世代で必要になります。そのため、私は無駄なものは作らないという思いで、この13年間やってきましたが、お金の振替も考えながら進めなければいけないと思いました。

4班：理想的な「就職・働き方・農業」の未来の姿

【女性】 私たち4班が理想とする10年、20年後の松山の未来像は「全世代に思いやりのある松山」です。農業分野と就職分野に分けて説明をします。

【女性】 まずは農業分野についてです。具体的な内容の1つ目は「もっともっと若者が農業に興味を持てる」です。私は今まで生きてきた中で農業に関わる機会が多かったため、農業に関係する職業に就きたいと思っています。農業の担い手が減っている中で若者に農業をしてもらうためには、体験することが一番大切だと思います。体験することで興味関心が湧くと思うので、義務教育の間に農業に関心を持てるような仕組みがあれば良いと思いました。次に「高齢者に優しい農業」です。最近ではドローンなどさまざまなスマート農機がありますが、私が高校1年生の時に受けたスマート農業の授業を通して思ったことは、操作が難しいということです。ドローンを使っているところを見せていただきましたが、操作が難しくて繊細なので、簡単な説明で分かりやすく、少ないボタンで操作できるようにして、高齢者にとって優しく使えるようになれば良いと考えました。

【女性】 これらに対して自分たちに何ができるかを考えました。1つ目は農業に関する取り組みに参加することです。農業体験や農業に関する学習を学校の授業に取り入れることで、若い世代と高齢者の繋がりができて、世代間の関係を修復できると思います。若い世代が高齢者に農業を教わるだけでなく、新しい発見や技術の向上にも繋がると思います。しかし農業体験のために学生がたくさん集まるとは思っていません。そこで、SNSで情報発信をするのが良いと思います。SNSに農業の動画や写真を投稿することで、それに目をつけた若い世代が興味を持って参加すると思います。これらの取り組みによって、若い世代が高齢者との関係性を持つことができると思いますし、若い世代が助け合うことで高齢者の負担も減ると思います。また、若い世代にとっても新しいことに挑戦することで自信を持つことができ、農業に対する思い入れも深くなるので、一石二鳥の取り組みができると思います。

【男性】 次に就職分野の具体的な内容について発表します。1つ目は「AIを活用してホワイトな働き方を」です。AIを活用して労力を減らすことは会社にとっても良いこ

とだと思えます。2つ目は「必要な人に必要な情報を」です。就職をする際に必要な人が必要な情報を知ることができれば良いと思えます。

【女性】 その2点について私たちに何ができるかを考えました。「必要な人に必要な情報を」については、職業体験に参加した人に積極的にSNSで発信してもらい、SNSを通して広く情報を得られることが一番理想的な形だと思えました。また、私たち自身にできることではありませんが、佐賀県の実際の取り組みで、特に男性の育休取得率が低いことから、育休を取りたい場合に申請するのではなく、育休を取らない場合に申請するという逆転の発想を取り入れています。この取り組みで育休取得率がほぼ100%になったというエピソードを聞いて、そういった面白いアイデアが市役所を中心に松山市や愛媛県内で広まればもっと良い松山になると考えました。

【市長】 皆さんは若いので知らない人が増えてきたんですが、私は市長になる前に民間放送のアナウンサーをしていました。日曜日のお昼の「もぎたてテレビ」という番組を20年担当していたので、愛媛県内をくまなく周っています。私はもともと北条出身で、兼業農家で家に田んぼや畑、みかん畑、山がある家の子ですので、農業は大事にしたいと思っています。市長の仕事をさせてもらっていて、若い農家の方から「面白いよ」と言ってもらえることが増えてありがたいです。例えば、紅まどんなどいう12月のできる立派な柑橘があって、すごく作るのが難しいのですが、路地で作るよりも雨や風の影響を受けないハウスの中で作ると良いものができやすいです。でも、ハウスを作ろうとするとお金がかかるので、さまざまな支援をして現在に至ります。アボカドはメキシコ産がほとんどですが、地元で作ったアボカドはギリギリまで完熟させて出荷できる安全安心の松山産です。このようにどんな産物が松山に適しているかを考えながら今まで取り組んできました。ドローンは確かに操作が難しいです。全ての種類の農薬が撒けるわけではないなど難しさがあります。でも、農業を楽にするために新たな技術を使っていくことは大事だと思えますので、農業の担当課と民間の方で連携しながら良い技術を開発していけたらと思います。最後に、日本の食料自給率は38%です。6割は海外から輸入しています。また、食品ロスが発生しています。もったいないですよ。できるだけ地元で作って地産地消することも大事だと思えます。育休については、この間松山市役所で令和7年度までに男性の育休取得率100%にすると宣言しましたので、これからも取り組みを進めていきます。

5班：理想的な「自治・行政・防災」の未来の姿

【女性】 私たちは自治・行政・防災の観点から10年、20年後の松山の未来像として「壁のない災害に強い松山」を考えました。具体的な内容の1つ目が「交流が盛ん」、2つ目が「地域と交流することで世代に関係なく話し合いができる」、3つ目が「全世代で自治をする」、4つ目が「助け合えるまちができていたら災害が起きても大丈夫」

です。

【女性】 そのために私たちにできることを4つ発表します。1つ目に「地域のイベントに積極的に参加する」、2つ目に「政治や地域と関わることに進んで取り組む」、3つ目に「地域行事を増やして交流の機会を作る」、4つ目に「全世代の人が楽しめるイベントをもっと催す」です。

【女性】 それぞれについて詳しく説明します。まず世代に関係なく声を上げられて、全世代で話し合える自治ができる松山になると良いと話し合いました。ホームページで松山に関する意見を投稿できるようになっていますが目立たないので、もっと多くの人に見やすく、市民に分かりやすくなれば良いと思います。また、駅などにも意見箱を作ることで、これまで声が届かなかった市民の新しいアイデアが出てくると思います。

【女性】 私からは自治分野について話させていただきます。自治の面で助け合えるまちになったら良いと思います。私の父は町内会長を務めたことがあって、町内を回ることがよくありました。私はその仕事をずっと近くで見守って、できることから少しずつ手伝っていました。それがきっかけで町内の人と仲良くなって、挨拶をしてくれたり、学校に行く途中にすれ違ったら行ってらっしゃいと声をかけてくれるようになりました。町内のごみ捨て場が古くなってきた際に、町内の人からどうにかできないかと相談されて、父と一緒に材料を買いに行き一緒に作りました。その方の所まで持って行ったらすごく喜んでくださって、今でも使ってもらえています。それを見て私自身も嬉しくなりましたし、町内の人との関わりが増えて仲良くなっていけば、防災の面でも、地震が起きた時に一緒に避難しましょうと声を掛けやすくなると思いました。そのためにも、町内清掃や秋祭りなどのイベントに私たち自身が積極的に参加して町内の人と交流する場面を増やしていけたら良いと思います。

【男性】 防災に関しては、災害発生時に素早く的確な対応ができれば良いと思いました。僕は市長と同じ北条出身です。松山市では海拔などの案内を見ることが多くなったのですごく良いと思います。ただ、日本全体でも、僕が住んでいる北条でも、高齢化が進んでいて、高齢者が1人で家に住んでいることが多いです。その場合、大地震などの災害が起きた時に1人で逃げることができるのかという話をよく聞きます。また、今日午前中に市長が参加されていたマルシェをテレビで拝見しました。僕は北条の栗井地区に住んでいますが、あのようなイベントを栗井地区の公民館でも毎月開催しています。僕自身主催メンバーの一員として活動していて、毎月公民館で食品やみかんなどの商品を販売しています。販売は大人もしていますが、主役は小学生の子どもです。キッズニアという施設がありますが、それを見立てて作っています。子どもたちが働いて販売してお給料をもらって、それで買い物をするという仕組みです。地域の人もたくさん来てくれます。そうすることで小学生や僕たち高校生のような世代と高齢者の方との繋がりが生まれます。このようなイベントを他の地域にも広げていけたら、防災など地域の全てのことが担えるようになる気がします。そして、みんなで話し合っただけで、

自治・行政・防災の1つでも欠けると成立しないということです。全てが確立していることで地域が成り立つと思いました。

【市長】 みんなよく考えてくれているなど、とても嬉しく思いました。人が繋がると子育てでも良いことがあります。介護でも良いことがあります。抱えるように介護をしていたら本当にしんどいです。若いお父さんお母さんが抱えるように子育てをしていたら本当にしんどいです。人が繋がれば、子育てや介護、防犯、防災でも良いことがあります。コロナ禍で行事ができず人の繋がりが途絶えることがありましたが、これからも繋がりを大事にしていきたいと思えます。松山市は41地区それぞれに公民館があるのですが、味酒公民館は4階建てでエレベーターがありませんでした。しかし、おじいちゃんおばあちゃんが使いにくいので、エレベーターを付けました。3階建ての素鷲公民館や久米公民館、道後公民館、八坂公民館、興居島の由良公民館にエレベーターを設置してみんなが集まりやすくすることを今回の公約で掲げさせていただいています。また、避難した時に情報収集がしやすくなるように、小中学校や公民館にWi-Fiの整備を進めています。皆さんにお伝えしたいのは、みんなの意見で市政は変わるということです。例えばタウンミーティングは132回目だと話しましたが、子どもに参加してもらった回もあり、堀江地区のミーティングで「松山市の北部には児童館が少ないので作ってください」と言われて調べたところ、確かに北部には児童館が少なく、ニーズはあることが分かったので、北条に北部の児童館を作りました。また、小学生に「小学校と中学校の教室にエアコンを付けてください」と言われました。今は小学校も中学校も、普通教室や使用頻度の高い特別教室にエアコンが付いています。かなりお金がかかると思いましたが、その子が「私たちの教室にはエアコンが付いていないんですが、職員室には付いています」と言っていました。これは結構重い一言でした。お金はかなりかかりますが、工夫をしながらエアコンを付けさせていただきました。皆さんの意見で変わっていくんです。こうやって意見を言うっていただくことや考えていただくことも大事なので、今日はさまざまな気付きをいただきました。今日はお忙しい中、沢山考えていただき、沢山の意見を言うっていただき、ありがとうございます。それぞれ意見を言うっていただいたことに対して、全体的な話になって、個別に返せなくて申し訳なかったと思えます。皆さんの声を大事にしていきたいと思え、大学生、若手社会人の方、高校生の皆さんと3回話を聞かせていただきました。職員の皆さんも話を聞いているので、確実に次期総合計画に反映していきます。最後に私からお願いします。現在松山市では全世代型の防災教育を進めています。小学校の皆さんにも、防災教育することは無駄ではありません。東日本大震災の時には、小学生がおじいちゃんおばあちゃんの手を引きながら、山の方に避難したということがありました。小学生も含め、全世代での防災教育を全国で初めて松山市で開始しました。皆さんそれぞれにできることがあります。皆さんにいろいろと考えていただいて気づきがありましたが、みんなの声の集合体が市役所です。これから学校を卒業して、県外に出る方もいらっしゃると思えますし、県内に残る方もいらっしゃる

と思います。みんなの生まれ育った松山なので、何らかの形で関わっていただきたい
と思います。みんなの思いが次の松山市を作っていくと思うので、これからもよろしく
お願いします。貴重な時間をいただきました。本当にありがとうございました。

—了—